

九十代の生きがいは

九十代生きがいが何かと問われても 答えは難し自然に生きる

九十代見る感じるを書き留める これ生き甲斐の一つなるらん

二年忌に妻の名呼びて号泣す 意気地無し男の証なるかや

九十坂行く手に独り冬の月（俳句）

この月も亡き母と見た同じ月 八十年も前今も懐かし

庭師きて剪定したる庭清々し 残りし落ち葉丁寧に掃く

妻植えし白き山茶花凜として 降霜の朝咲き匂いけり

コロナ避け回りし道に人多し 同じ思いか足早に行く

コロナ禍に職失いし七万余 この年の瀬をどう生きるらん

安倍辞任心待ちしにその後になお危険なる政府誕生

落葉（らくよう）の陰にカマキリ身を構え 何を獲物にせんとするかや

車庫前の溝蓋とれば虫騒ぐ こんなところにもビオトープかな

七十で便利屋起業せる男 高圧洗浄で階段洗う

本溢れ新たな書棚据え置けば あと十年は生きたしと思う

リベラルがみな反中に靡く見て 戦前思いわが心憂し